

# SPORTS NEWS

2017年  
1月30日号

## ねんまつねんし こうこうせい あつ たたか 年末年始、高校生が熱い戦い



第3クォーター、TDを決めて喜ぶ佼成学園の選手たち



スパイクを放つ下北沢成徳の黒後愛選手



ゴールを決める青森山田の鳴海彰人選手 (左から2人目)



ドリブルする福岡第一の重富周希選手 (手前左)



スパイクを放つ駿台学園の坂下純也選手 (左)



21度目の優勝を遂げ、優勝回数を両手で示す桜花学園の選手たち



前半、突進する東福岡の箸本龍雅選手



ゴールする倉敷最終7区の名合治紀選手



ゴールする大阪薫英女学院最終5区の竹内ひかり選手

## だんし あおもりやまだ ひがん はつゆうしょう サッカー男子は青森山田が悲願の初優勝

この年末年始、各競技で高校生が日本一を目指して熱い戦いを繰り広げた。アメリカンフットボールの全国高校選手権クリスマスボウルは佼成学園（東京）が初優勝。バレーボールの全日本高校選手権は、男子は駿台学園（東京）が初優勝、女子は下北沢成徳（東京）が4度目の優勝を果たした。サッカー男子の全国高校選手権は青森山田（青森）が20年連続22度目の出場で悲願の初優勝。女子は十文字（東京）が初優勝を遂げた。

バスケットボールの全国高校選抜優勝大会は、男子は福岡第一（福岡）が2度目の優勝、女子は桜花学園（愛知）が21度目の優勝。全国高校ラグビー大会は東福岡（福岡）が6度目の優勝。全国高校駅伝競走は、男子は倉敷（岡山）が初優勝、女子は大阪薫英女学院（大阪）が2度目の優勝を果たした。

## ごうせんしゅ せいねん れんぱ 郷選手が成年500メートル連覇



優勝した郷亜里砂選手 (左端)

## ぎんれいこくたい 「ながの銀嶺国体」スケート

第72回国民体育大会冬季大会「ながの銀嶺国体」スケート・アイスホッケー競技会は1月27日、長野市などで始まり、スピードスケート成年女子500メートルで郷亜里砂選手（愛媛）が大会新記録の38秒37で2連覇した。同男子500メートルはソチ五輪代表の山中大地選手（長野）が大会新の35秒71で優勝。少年の500メートルは、女子が熊谷萌選手（岩手）、男子は石川斗来選手（北海道）が優勝。少年男子1万メートルは遠藤二千翔選手（岐阜）が制した。フィギュアスケートの少年男子は友野一希選手（大阪）、少年女子は白岩優奈選手（京都）が優勝した。スキー競技会は2月14日から白馬村で行われる。



少年男子アイスホッケーで対戦する長野代表と岡山代表

## さい ひらの みう せんしゅ さいねんしょうゆうしょう 16歳の平野美宇選手が最年少優勝

### ぜん にほん たつきゅうじょし 全日本卓球女子シングルス

卓球の全日本選手権最終日は22日、東京体育館で行われ、女子シングルス決勝で平野美宇選手が石川佳純選手を4-2で破り、初優勝を果たした。16歳9カ月での優勝は1988年の佐藤利香さん（17歳1カ月）を抜く史上最年少記録となった。男子シングルスは、リオデジャネイロ五輪銅メダルの水谷隼選手が史上最多となる9度目の優勝を果たした。平野選手は前回の決勝で石川選手に完敗。今回は、石川選手を第1ゲームから強打で攻め、2ゲームを先取。ゲームカウント3-2で迎えた第6ゲームも、強気の攻めが光った。「日本のエースになれるように頑張りたい」と平野選手。昨年のリオデジャネイロ五輪出場はかなわなかったが、3年後の東京五輪へ存在感を示した。



フォアハンドで攻める平野美宇選手

## オリンピック・パラリンピック通信

### パラリンピック競技 ウィルチェアーラグビー



リオ・パラリンピックでプレーする日本代表

ウィルチェアー（車いす）ラグビーは、四肢に障がいのある人向けに考案されたにもかかわらず、車いす同士のタックルが認められているなど、非常に激しい競技である。そのため頑丈な競技専用の車いすを使用するが、そのぶつかり合う衝撃は、見る者を圧倒する。通常のラグビーと異なり1チーム4

人（男女混合可）で、ボールは丸く、投げたり転がしたり、前方へのパスも可能。ドリブルや膝の上に乗せるなどして、ボールを持った選手の車いすが相手側のゴールラインに達すると得点になる。2016年のリオデジャネイロ・パラリンピックでは、3位決定戦で強豪カナダに勝利し、悲願の銅メダルを獲得した。

